

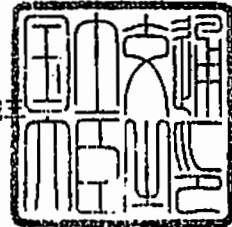
認定書

国住指第 1168 号
平成 19 年 8 月 8 日

クリオン株式会社

代表取締役社長 松平 孝治 様

国土交通大臣 冬柴 鐵三



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項(同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第 2 条第七号及び同法施行令第 107 条第一号(柱:1 時間)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

FP060CN-0288

2. 認定をした構造方法等の名称

ALCパネル/ALCパネル合成被覆/角形鋼管柱

3. 認定をした構造方法等の内容

別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別 添)

1. 構造名

ALCパネル／ALCパネル合成被覆／角形鋼管柱

2. 寸法および形状等

(寸法単位：mm)

項目	申請構造
断面形状	角 形
断面寸法	□-400～700×450～700×H (階高による)

3. 材料構成

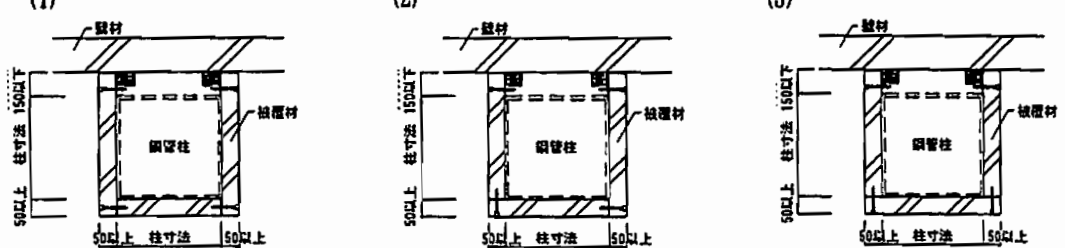
1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項目	申請構造
①荷重支持部材	柱：角形鋼管 ・断面形状 □-300～600×300～600×9 ・材 質 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1)一般構造用圧延鋼材 (SS400, SS490) ・規 格 JIS G 3101 (2)溶接構造用圧延鋼材 (SM400, SM490) ・規 格 JIS G 3106 (3)溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材 (SMA400, SMA490) ・規 格 JIS G 3114 (4)建築構造用圧延鋼材 (SN400, SN490) ・規 格 JIS G 3136 (5)一般構造用角形鋼管 (STKR400, STKR490) ・規 格 JIS G 3466
②壁材	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1)ALCパネル ・規 格 JIS A 5416 ・厚 さ 100 ₂ 以上 (2)鉄筋コンクリート (3)プレキャストコンクリートパネル ・厚 さ 70 ₂ 以上 ・寸 法 幅 300～606 ₄ 長さ 6000 ₅ 以下 ・壁材と角形鋼管の距離 150 以下

(別添-1)

(寸法単位：mm)

項目	申請構造
③被覆材	<p>ALCパネル</p> <ul style="list-style-type: none">・規格 JIS A 5416・厚さ 50₂ 以上・寸法 幅 300~606₄ 長さ 3000₅ 以下 <p>・補強材</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)メタルラス</p> <ul style="list-style-type: none">・規格 JIS A 5505・板厚 0.4 以上・間隔 16×32 以下 <p>(2)溶接金網</p> <ul style="list-style-type: none">・規格 JIS G 3551・線径 $\phi 2.6_{0.06}$ 以上・間隔 300×300 以下(公差：+10 または+7.5%のうち、いずれか大きい値) <p>・留付け方法</p> <p>(1)~(3)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) (2) (3)</p> 
④耐火材	<p>セラミックファイバーブランケット</p> <ul style="list-style-type: none">・規格 JIS R 3311・寸法 25 以上×50 以上・密度 80kg/m³ 以上
⑤下地材	<p>(1)~(3)のうち、いずれか一仕様とする。</p> <p>(1)なし</p> <p>(2)ALCパネル</p> <ul style="list-style-type: none">・規格 JIS A 5416・寸法 厚さ：10~50 幅：30 以上 <p>(3)繊維混入けい酸カルシウム板</p> <ul style="list-style-type: none">・寸法 厚さ：10~50 幅：30 以上

2) 副構成材料

(寸法単位: mm)

項目	申請構造
①シーリング材	<p>[壁材目地および被覆材との取合い]</p> <p>(1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) なし</p> <p>(2) アクリル系</p> <p>(3) ポリウレタン系</p> <p>(4) アクリルウレタン系</p> <p>(5) 変性シリコーン系</p> <p>・使用量 200₊₃₀g/m以下</p> <p>[被覆材目地用]</p> <p>(1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) なし</p> <p>(2) アクリル系</p> <p>(3) ポリウレタン系</p> <p>(4) アクリルウレタン系</p> <p>(5) 変性シリコーン系</p> <p>・使用量 30₊₁₀g/m以下</p>
②ねじ	<p>[被覆材相互間]</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) タッピンねじ</p> <p>・寸法 $\phi 5.0$ 以上×$\phi 70$ 以上</p> <p>・間隔 455 以下</p> <p>(2) 木ねじ</p> <p>・寸法 $\phi 5.0$ 以上×$\phi 70$ 以上</p> <p>・間隔 455 以下</p> <p>[被覆材と取付け金物間]</p> <p>セルフタッピンねじ</p> <p>・寸法 $\phi 5.0$ 以上×$\phi 65$ 以上</p> <p>・間隔 600 以下</p>

(寸法単位:mm)

項目	申請構造
③取付け金物	<p>・材質</p> <p>(1)～(10)のうち、いずれか一仕様または同等品とする</p> <p>(1)一般構造用圧延鋼材 ・規格 JIS G 3101</p> <p>(2)溶接構造用圧延鋼材 ・規格 JIS G 3106</p> <p>(3)溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材 ・規格 JIS G 3114</p> <p>(4)熱間圧延軟鋼板および鋼帯 ・規格 JIS G 3131</p> <p>(5)冷間圧延軟鋼板および鋼帯 ・規格 JIS G 3141</p> <p>(6)再生鋼材 ・規格 JIS G 3111</p> <p>(7)溶融亜鉛めっき鋼板および鋼帯 ・規格 JIS G 3302</p> <p>(8)塗装溶融亜鉛めっき鋼板および鋼帯 ・規格 JIS G 3312</p> <p>(9)電気亜鉛めっき鋼板および鋼帯 ・規格 JIS G 3313</p> <p>(10)一般構造用軽量形鋼 ・規格 JIS G 3350</p> <p>・形状</p> <p>1)～3)のうち、いずれか一仕様とする。</p> <p>1) L型金物 ・厚さ 1.6以上 ・幅 30以上 ・長さ 130以下 ・間隔 600以下</p> <p>2) C型金物 ・厚さ 1.6以上 ・幅 30以上 ・長さ 130以下 ・間隔 600以下</p> <p>3) フラット金物 (下地材なしの場合に限る) ・厚さ 1.6以上 ・幅 30以上 ・長さ 200以下 ・間隔 600以下</p>
④補修材	<p>セメント系補修材(既調合)</p> <p>・組成(質量%) セメント 25～30 骨材 60～65 その他 2～5</p> <p>・使用量 5g以上/箇所(ねじ打ち込み後の凹部全域に充てん、埋め戻す)</p>

(寸法単位：mm)

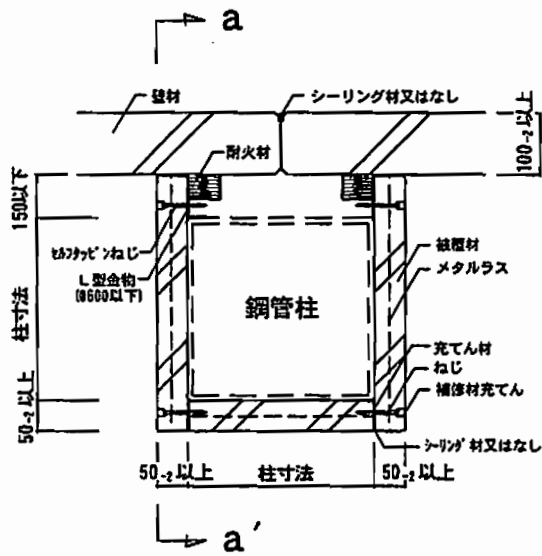
項目	申請構造
⑤充てん材	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) アクリル樹脂系</p> <ul style="list-style-type: none">・組成(質量%)<ul style="list-style-type: none">樹脂エマルジョン 30~35充てん材 50~55可塑剤 5~10その他 2~5・使用量 70₊₂₀ g/m 以下 <p>(2) シリカアルミナ系</p> <ul style="list-style-type: none">・組成(質量%)<ul style="list-style-type: none">けい石 60粘土 10セメント 30・使用量 90₊₃₀ g/m 以下
⑥接着剤	<p>(1)~(3)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) なし(下地材なしの場合に限る)</p> <p>(2) アクリル樹脂系</p> <ul style="list-style-type: none">・組成(質量%)<ul style="list-style-type: none">樹脂エマルジョン 30~35充てん材 50~55可塑剤 5~10その他 2~5・使用量 50g/m 以下 <p>(3) シリカアルミナ系</p> <ul style="list-style-type: none">・組成(質量%)<ul style="list-style-type: none">けい石 60粘土 10セメント 30・使用量 100g/m 以下

4. 構造説明図

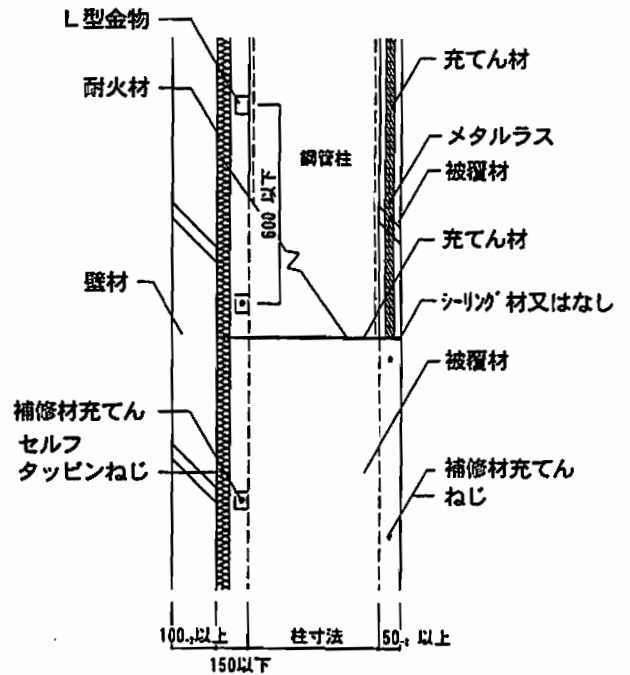
<下地材なしの場合>

(寸法単位：mm)

[構造説明図 例1]

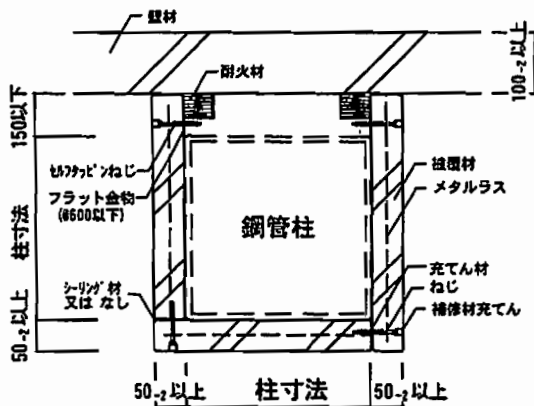


水平断面図

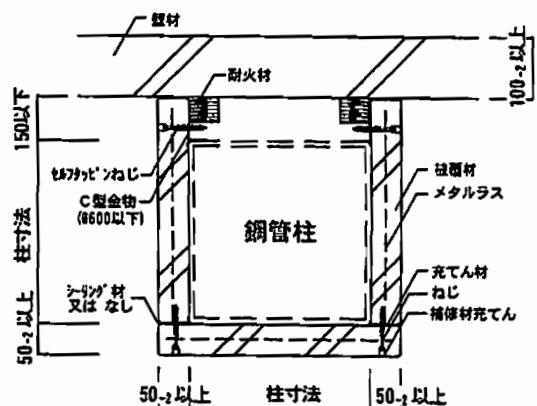


a-a' 矢視図

[構造説明図 例2]



[構造説明図 例3]

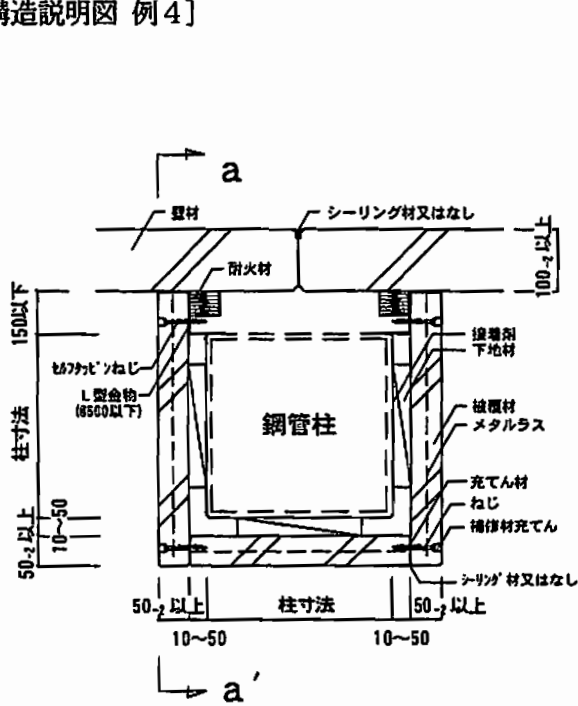


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

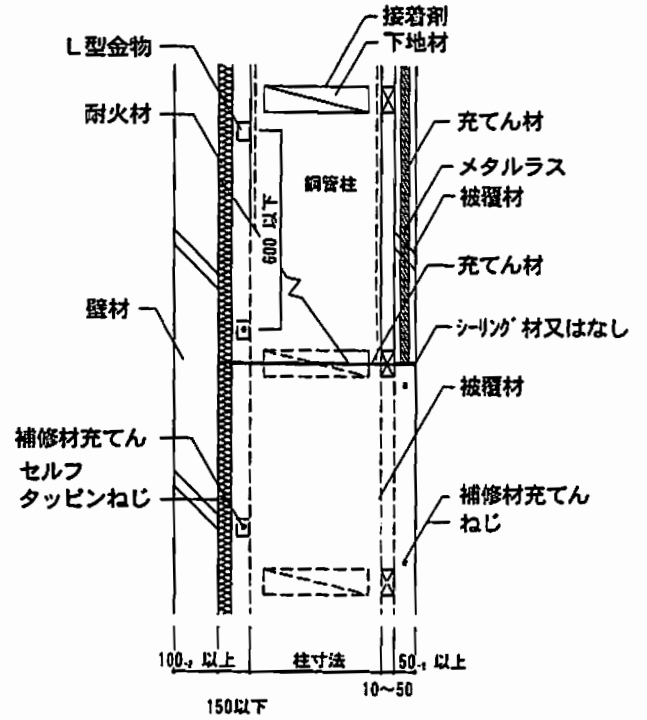
<下地材ありの場合>

(寸法単位 : mm)

[構造説明図 例4]

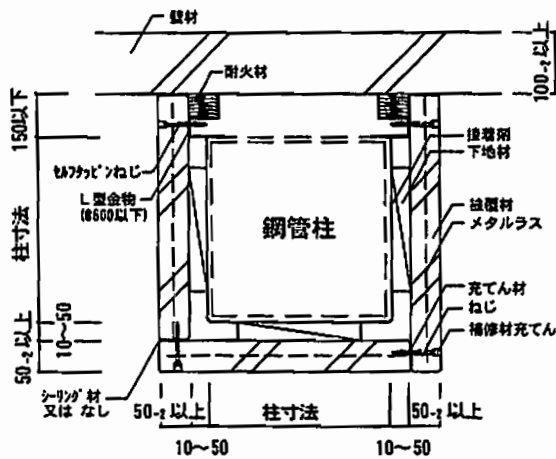


水平断面図

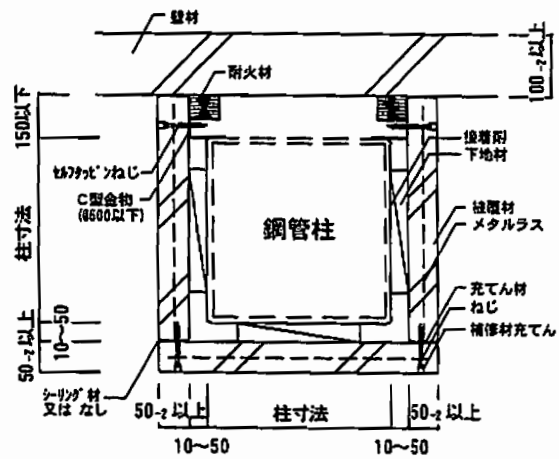


a-a' 矢視図

[構造説明図 例5]



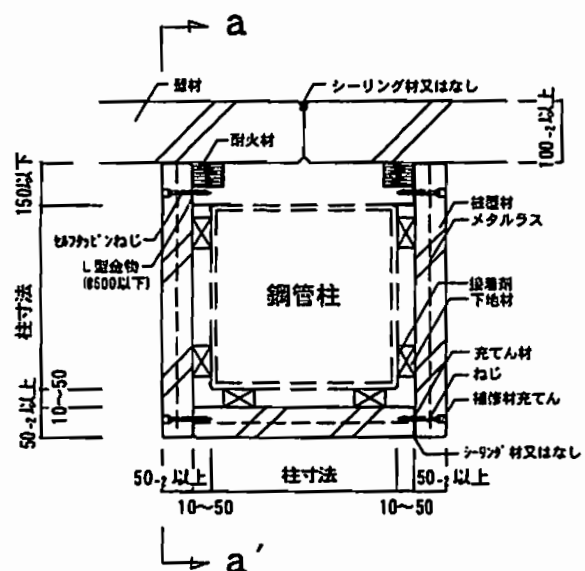
[構造説明図 例6]



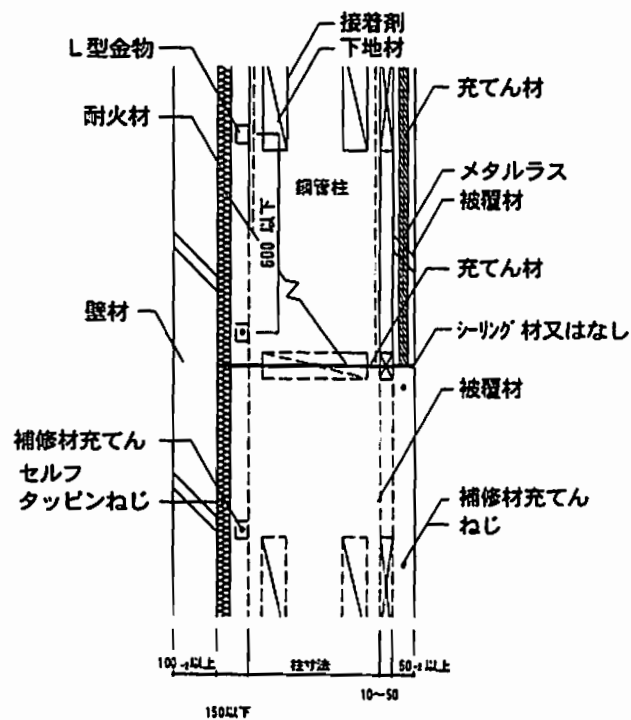
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

(寸法単位：mm)

[構造説明図 例7]

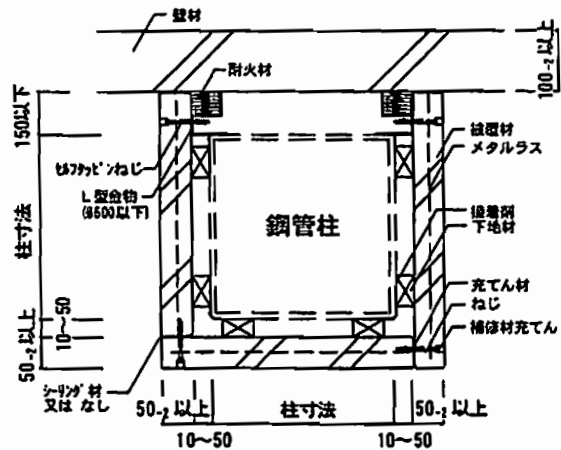


水平断面図

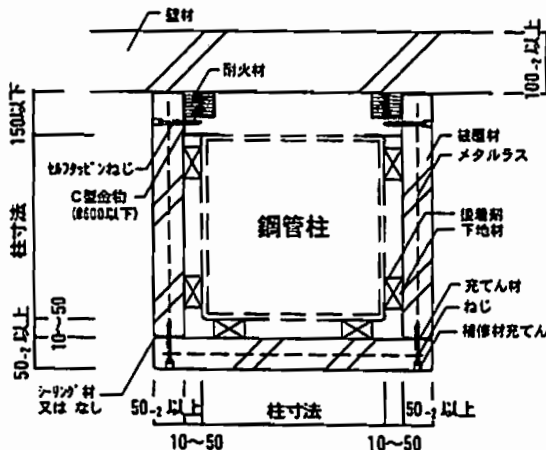


a-a' 矢視図

[構造説明図 例8]



[構造説明図 例9]

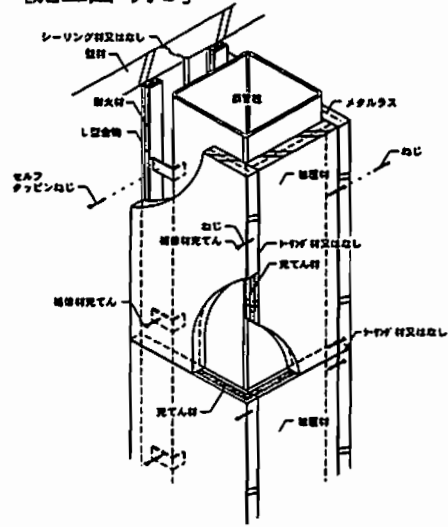


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

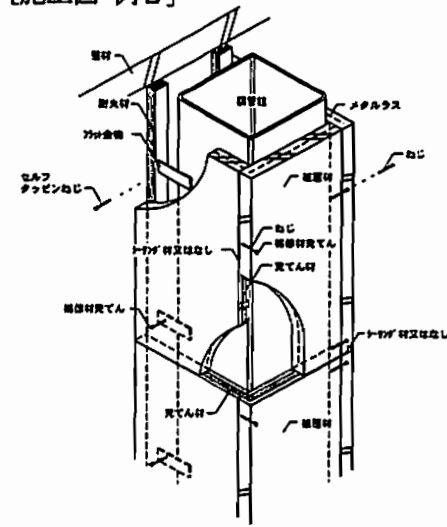
5. 施工方法等

<施工図：下地材なしの場合>

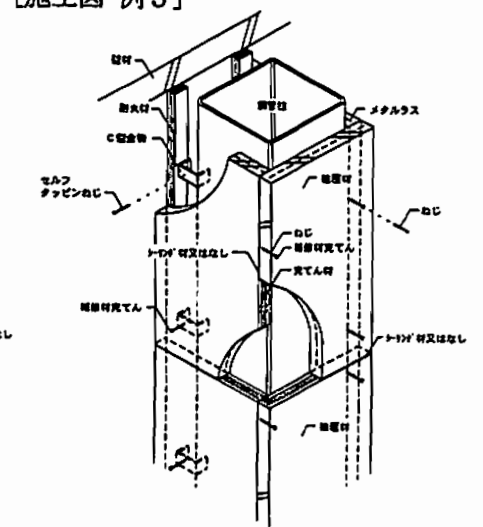
[施工図 例1]



[施工図 例2]

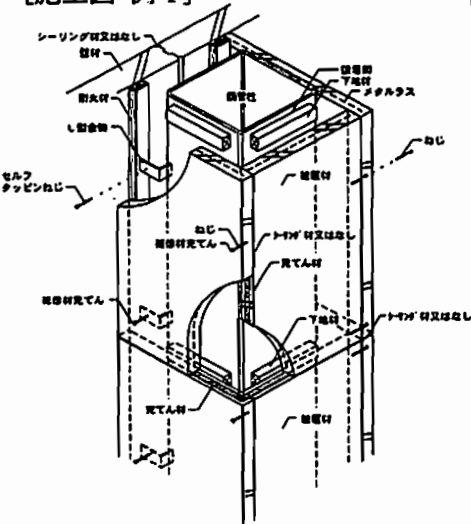


[施工図 例3]

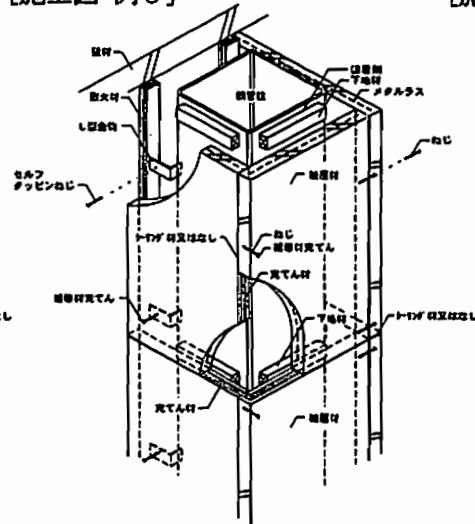


<施工図：下地材ありの場合>

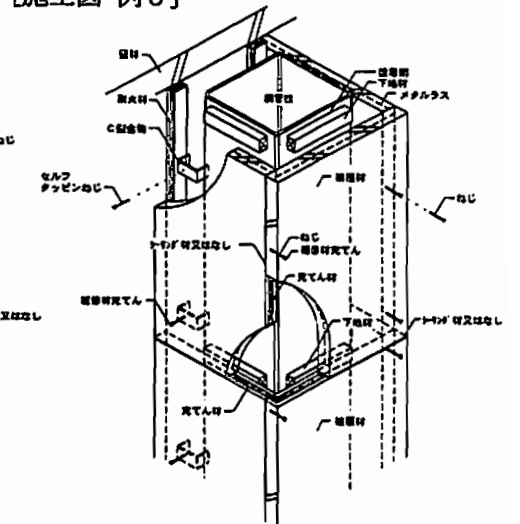
[施工図 例4]



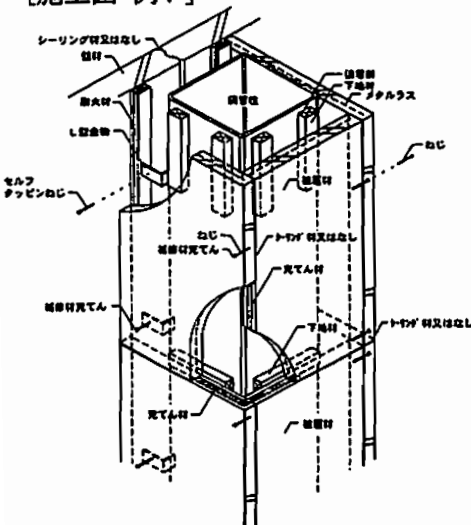
[施工図 例5]



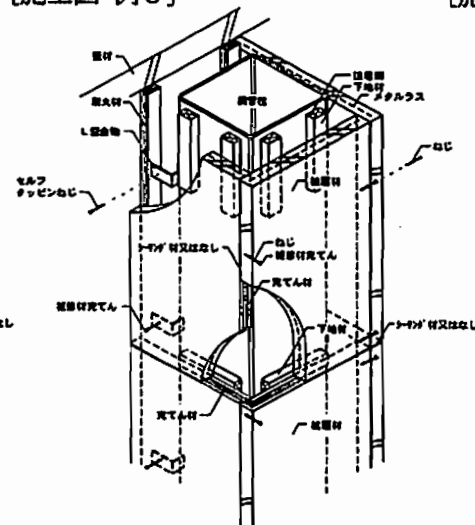
[施工図 例6]



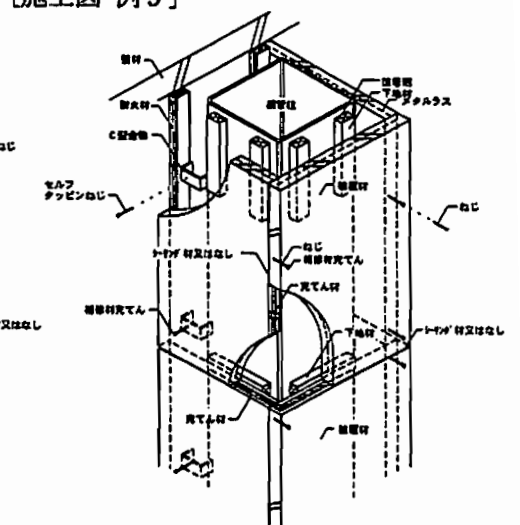
[施工図 例7]



[施工図 例8]



[施工図 例9]



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

<施工手順：下地材なしの場合>

①事前準備

- ・基準墨ならびに柱の建て方精度を確認する。
- ・施工図を基に、被覆材の割付け墨を出す。
- ・壁材と対面となる鋼管柱面には、600mm 以下の間隔となるよう被覆材取付け金物の位置出しを行い、鋼管柱に金物を取付ける。
- ・被覆材と壁材面の取り合い部には、被覆材との隙間が出来ないように耐火材を接着剤またはくぎにて所定位置に止め付ける。

②被覆材の取付け

- ・被覆材の欠け等に注意しながら、施工図に従って被覆材の切断加工を行う。
- ・被覆材の取付けは、欠け等に注意しながら施工図に従って鋼管柱を囲う様に建込む。
- ・被覆材相互が接する小口面には被覆材切断または加工時の誤差・隙間を吸収するための充てん材をビード塗布し、所定寸法となるよう圧着を行いスクリュードライバー等の工具を用いて被覆材表面から小口部に向かって455mm 以下の間隔でねじを打ち込む。また、壁材との取合い部分ではスクリュードライバー等の工具を用いて被覆材表面から取付け金物に向かってねじを打ち込む。
- ・ねじ打込みの際には被覆材表面より7～10mm 程度、ねじ頭を沈み込ませる。

③補修および防錆処理

- ・取付けの際に出来た被覆材表面ねじ凹部には、補修材を充てんして埋め戻す。
また、被覆材取付け時に生じた被覆材の欠け等は、補修材にて補修を行う。
- ・被覆材の切断小口に露出したメタルラスは、防錆材にて防錆処理を行う。

④シーリング

- ・被覆材間目地処理の必要がない場合には、被覆材目地部の余剰充てん材の除去を確認し清掃を行い、工事完了となる。
- ・被覆材間目地処理が必要な場合には、被覆材目地部の清掃を行いシーリング材の打込みを行う。シーリング材打込み後は速やかにヘラ押さえ・ヘラ仕上げを行う。ヘラ仕上げ後は、被覆材目地部の周辺に押し出された余剰なシーリング材の除去を行い、工事完了となる。

⑤検査

- ・パネル取付け施工者およびその管理者は、パネル取付けの進捗状況に合わせて適正な自主検査を行う。
- ・工事完了後は、元請けの現場責任者立ち会いのもと、工事完了検査を実施する。

<施工手順：下地材ありの場合>

①事前準備

- ・基準墨ならびに柱の建て方精度を確認する。
- ・基準墨を基に、被覆材の割付け墨を出す。
- ・壁材と対面となる鋼管柱面には、600mm以下の間隔となるよう被覆材取付け金物の位置出しを行い、鋼管柱に金物を取付ける。
- ・被覆材と壁材面の取り合い部には、被覆材との隙間が出来ないように耐火材を接着剤またはくぎにて所定位置に止め付ける。

②下地材の取付け

- ・被覆材の割付け墨を基に下地材設置位置の確認を行い、設置位置の鋼管柱表面の清掃を行う。
- ・清掃後は順次、下地材の鋼管柱側となる面に接着剤をビード塗布し、鋼管柱への圧着を行う。

③被覆材の取付け

- ・被覆材の欠け等に注意しながら、施工図に従って被覆材の切断加工を行う。
- ・被覆材は、欠け等に注意しながら施工図に従って鉄骨柱を囲う様に建込む。
- ・被覆材相互が接する小口面には被覆材切断または加工時の誤差・隙間を吸収するための充てん材をビード塗布し、所定寸法となるよう圧着を行いスクリュードライバー等の工具を用いて被覆材表面から小口部に向かって455mm以下の間隔でねじを打ち込む。また、壁材との取合い部分ではスクリュードライバー等の工具を用いて、被覆材表面から取付け金物に向かってねじを打ち込む。
- ・ねじ打込みの際には被覆材表面より7～10mm程度、ねじ頭を沈み込ませる。

④補修および防錆処理

- ・取付けの際に出来た被覆材表面ねじ凹部には、補修材を充てんして埋め戻す。
また、被覆材取付け時に生じた被覆材の欠け等は、補修材にて補修を行う。
- ・被覆材の切断小口に露出したメタルラスは、防錆材にて防錆処理を行う

⑤シーリング

- ・被覆材間目地処理の必要がない場合には、被覆材目地部の余剰充てん材の除去を確認し清掃を行い、工事完了となる。
- ・被覆材間目地処理が必要な場合には、被覆材目地部の清掃を行いシーリング材の打込みを行う。シーリング材打込み後は速やかにヘラ押さえ・ヘラ仕上げを行う。ヘラ仕上げ後は、被覆材目地部の周辺に押し出された余剰なシーリング材の除去を行い、工事完了となる。

⑥検査

- ・パネル取付け施工者およびその管理者は、パネル取付けの進捗状況に合わせて適正な自主検査を行う。
- ・工事完了時後は、元請けの現場責任者立ち会いのもと、工事完了検査を実施する。